

協議会設立の背景・目的

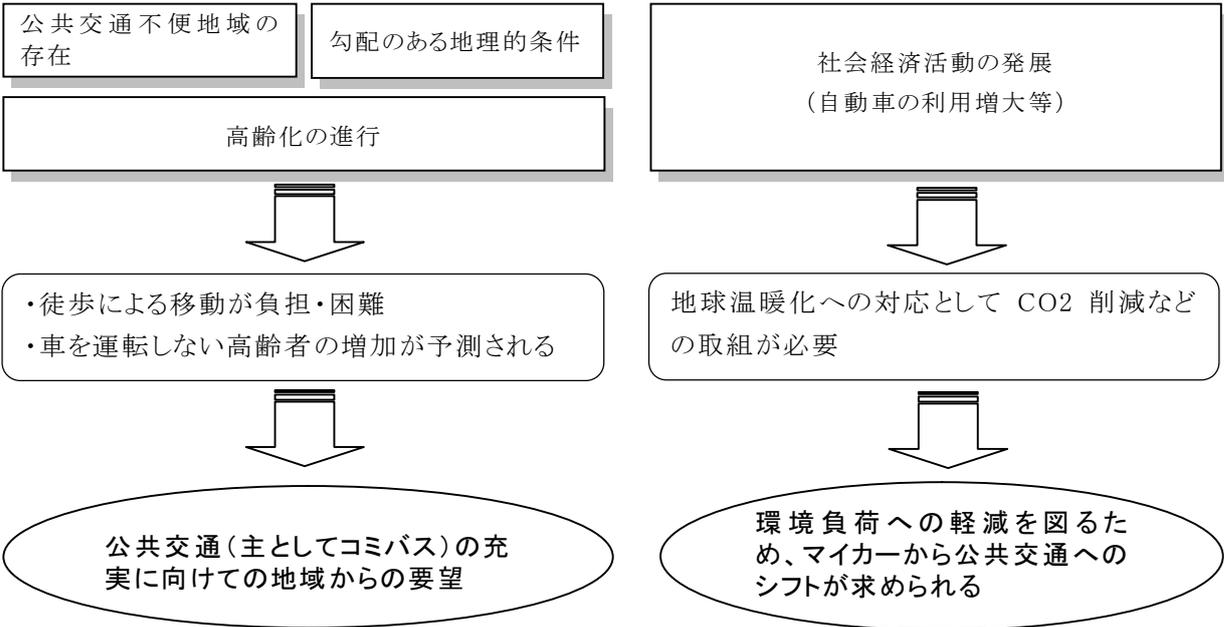
1 背景

本市の公共交通

- 本市は昭和40年代から大阪のベッドタウンとして急速に発展してきたまち。住宅開発に合わせて鉄道、バス路線の充実が図られてきた。
- 鉄道は現在4路線、主に通勤、通学など都市間の輸送を担う。
近鉄奈良線、生駒線、けいはんな線、生駒ケーブル
- 路線バスは鉄道駅を起点に、市内相互間の移動手段としての役割を担う。
奈良交通、生駒市コミュニティバス(1路線)

取り巻く現状

- 住宅開発に伴う人口増加により、公共交通の利用者は増加してきたが、車社会の進展や少子高齢化などを背景に、近年では公共交通の利用者は減少。
- 開発された住宅地以外(旧集落)では公共交通の利用が不便な地域も。
- 勾配のある地形により、日常生活の上で徒歩による外出が負担となっている地域も。
- 地球規模で環境問題が深刻化。CO2削減に向けて個人や地域レベルでの取組が必要。



課題

今後一層高まることが予想される公共交通のニーズに対してどのように対応していくか？

○民間バス事業者への期待は難しい

- ・自動車の普及に伴い、全国的に民間バスサービスが衰退している。(本市においては、路線

撤退までの段階にはないが・・・)

○行政だけですべてのニーズに対応していくことは難しい

- ・現在、行政が民間バスサービスをカバーしてコミュニティバスを運行しているが、市の財政状況も厳しい中で、どこまで対応できるのか。
- ・さらに、公平性の観点も重要

2 目的

関係行政機関、交通事業者、利用者(市民)が参加のもと、市内バス路線等の活性化を通じて生活交通の維持、地域の活性化に向けた方策を検討

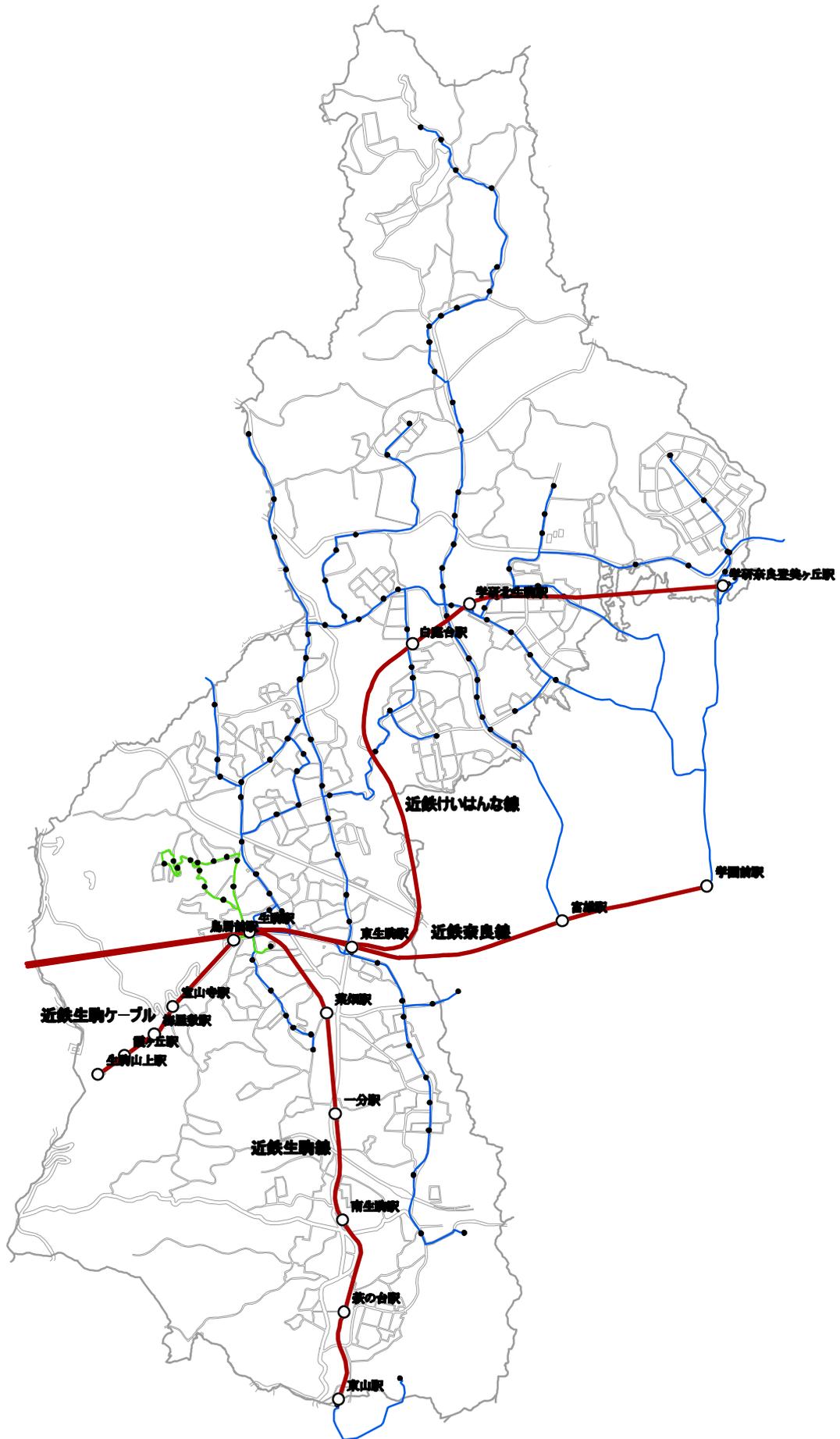
○地域公共交通総合連携計画の策定(H22)

- ☆コミュニティバス等の運行に当たっての基準やルールづくり
- ☆実証運行地域、ルートの設定

○連携計画に基づく事業の実施(H23～H25)

- ☆実証運行の実施
- ☆公共交通の利用促進のためのPR など

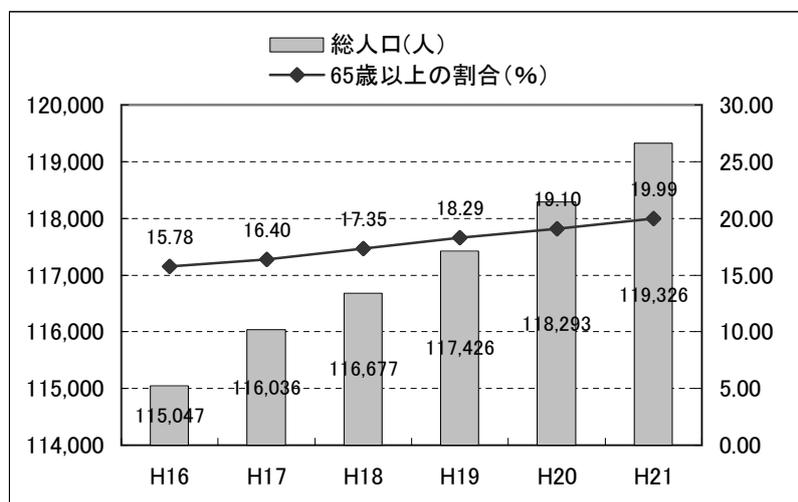
生駒市の公共交通網



■生駒市の人口と高齢化率

(各年10月1日現在)

	H16	H17	H18	H19	H20	H21
総人口(人)	115,047	116,036	116,677	117,426	118,293	119,326
65歳以上の割合(%)	15.78	16.40	17.35	18.29	19.10	19.99



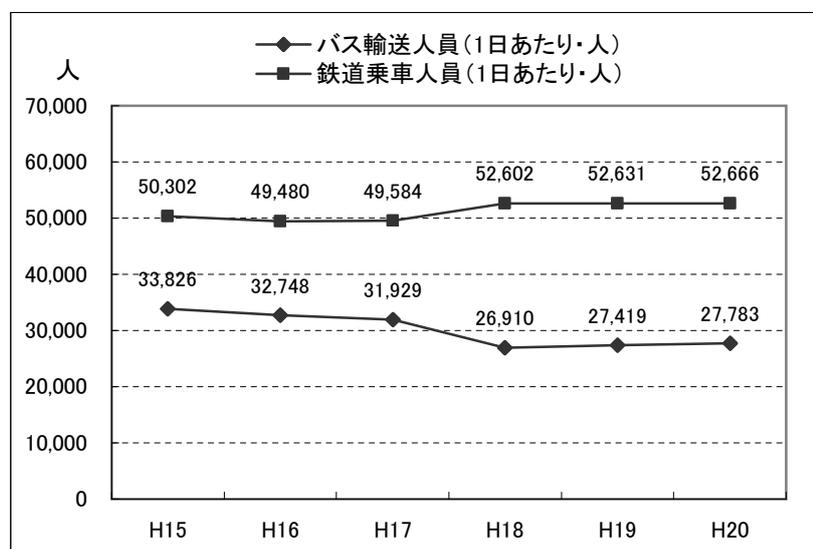
■公共交通機関の利用者数

(年度)

	H15	H16	H17	H18	H19	H20
バス輸送人員(年間・人)	12,346,592	11,985,666	11,654,236	9,822,095	10,008,113	10,140,660
鉄道乗車人員(年間・人)	18,360,321	18,109,577	18,098,262	19,199,669	19,210,302	19,223,267
バス輸送人員(1日あたり・人)	33,826	32,748	31,929	26,910	27,419	27,783
鉄道乗車人員(1日あたり・人)	50,302	49,480	49,584	52,602	52,631	52,666

※平成18年3月27日に、けいはんな線が開業

※バス輸送人員には生駒市コミュニティバスの輸送人員を含む

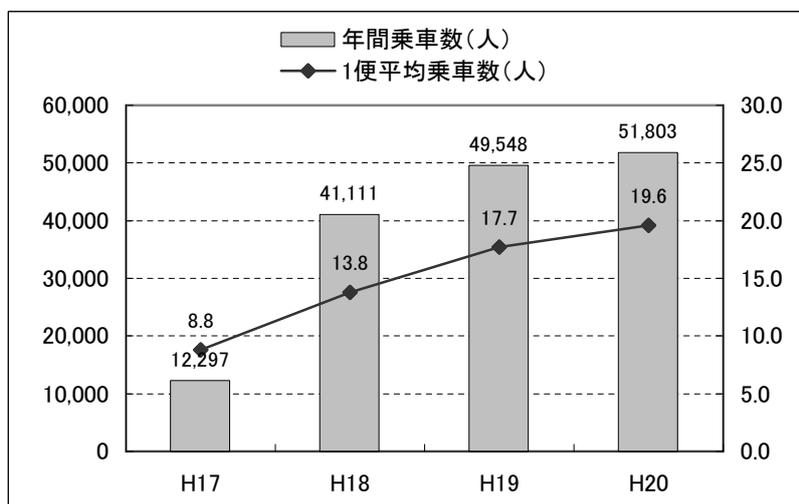


■生駒市コミュニティバスの乗車実績

(年度)

	H17	H18	H19	H20
年間乗車数(人)	12,297	41,111	49,548	51,803
1便平均乗車数(人)	8.8	13.8	17.7	19.6

※H17は10月21日から



■乗用自動車登録台数

(各年度末現在)

車種	H15	H16	H17	H18	H19	H20
普通車(台)	15,071	15,643	16,079	16,304	16,358	16,390
小型車(台)	19,979	19,903	20,017	19,658	19,374	19,032
軽四輪車(台)	6,585	6,560	7,421	7,972	8,537	9,016
合計	41,635	42,106	43,517	43,934	44,269	44,438

